

ユニセフ 活動の成果2020

COVID-19流行の中で

unicef 
for every child

75



ユニセフ 活動の成果2020

ユニセフ(国連児童基金)は約190の国と地域で、子どもたちの命と権利を守り、乳幼児期から青少年期まで、生まれ持った能力を最大限に発揮できるよう支援するために活動しています。

2020年、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行は、かねてから存在していた深刻な不平等を表面化させ、最も貧しい国々やコミュニティに暮らす子どもたちや、差別や社会的排除、脆弱な立場、紛争によってすでに不利な状況に置かれていた子どもたちが最も大きな打撃を受けました。

ユニセフは、独自のデータシステムを利用してCOVID-19の世界的流行が子どもたちに及ぼした影響を迅速に評価し、約190の国と地域に及ぶ広範な活動範囲と、人道支援と開発支援いずれをも担う立場を活用し、国連が主導するCOVID-19への対応において重要な役割を果たしました。またユニセフの物資供給センターは、物流に関する専門性を活かし、2020年の間に個人用防護具(PPE)約5億点を138カ国に届けました。

これまでと同様に、子どもと若者の生活を支え改善するためのユニセフの活動にとって、パートナーシップと任意の寄付は欠かせないものであり、公的部門、民間部門双方のパートナーからCOVID-19対応への支援を受けました。COVID-19が世界で猛威を振るう中で、ユニセフが突然の緊急事態に迅速かつ効果的に対応し、各国やコミュニティにレジリエンス(回復力)の構築につながる長期的な支援を提供するには、いかに柔軟に活用できる資金が不可欠であるかも明らかになりました。

2020年、ユニセフは主に以下のような成果を達成しました。

- 「COVAXファシリティ」(COVID-19ワクチンの共同購入と公平な分配のための国際的枠組み)において主導的役割を担い、92カ国の低・中所得国向けのワクチンを調達し、各国のワクチン配送準備を支援しました。
- 5,800万人の子どもを含む1億600万人に、水、衛生設備(トイレ)、衛生習慣に関する必要不可欠なサービスと物資を届けました。
- 約15億3,000万人の女性と女の子および8億1,000万人の子どもを含む30億人に、リスク・コミュニケーションと地域社会の参画(RCCE)に関する情報提供と活動を実施しました。
- 260万人近くの保健・医療従事者に個人用防護具(PPE)を提供しました。
- 400万人の保健・医療従事者に、感染の予防とコントロールに関する研修を実施しました。
- 3万人以上のソーシャルワーカーに必須サービスの提供に関する研修を実施しました。
- COVID-19対応計画においてコミュニティに根差したメンタルヘルスケアと心理社会的支援をサポートし、117カ国の7,800万人の子ども、青少年、親や養育者に提供しました。
- 70カ国以上で、重度の消耗症(急性もしくは重度の栄養不足の状態)の子ども約500万人への治療とケアを実施しました。
- 約1億4,700万人の女の子を含む3億100万人以上の子どもの遠隔学習を支援しました。
- COVID-19関連以外にも、152カ国で455件の新規および継続中の人道危機に対応しました。





目標分野 1

すべての子どもが命を守られ健全に発育すること

COVID-19 による危機が始まって以来、ユニセフは妊産婦、新生児、子どもと青少年の命を守るための保健・予防接種、栄養、乳幼児期の子どもの発達に関するサービスの継続を支援してきました。コミュニティに根差した解決策やデジタル技術の活用に重点を置きながら、迅速な対応ができるようにプログラムの実施方法を改善し、プライマリ・ヘルスケア・システムのレジリエンスを強化しました。

主要な成果

3,050万人の赤ちゃんがユニセフの支援を受けた保健施設で生まれました

肺炎の疑いのある**870万人**の子どもが抗生物質の投与を受けました

約2億4,400万人の子どもが発育阻害やその他の栄養不良を予防するためのサービスを受けました

対象国の**100%**が影響力の大きい、ジェンダーに配慮した青少年ケアの実施に取り組みました

緊急事態下にある**1,700万人**の子どもがはしかの予防接種を受けました

500万人の子どもが重度の急性栄養不良の治療を受けました

1,500万人の女の子と**970万人**の男の子がHIV検査を受けました

緊急事態下にある**約280万人**の子どもが乳幼児期の子どもの発達または就学前教育のプログラムに参加しました

COVID-19による影響



少なくとも68カ国の1歳未満児8,000万人が、命を守るワクチン接種を受けられない可能性があります。



今後さらに670万人の5歳未満の子どもが、消耗症に陥るおそれがあります。



2020年10月末までに、世界の3分の1の国で定期予防接種の接種率が10%以上低下しました。中には接種率が最大で50%低下した国もありました。



目標分野 2

すべての子どもが学ぶ機会を得ること

COVID-19による影響

最大で16億人の子どもや若者が
学校閉鎖の影響を受けました。



学校に通う子どもの少なくとも
3人に1人は、学校閉鎖の
期間中に遠隔学習を
利用できませんでした。

COVID-19の世界的流行によって教育における不平等が深刻化し、特にデジタル格差が浮き彫りになる中で、ユニセフは子どもたちが取り残されることなく学習を継続できるようにする手段を見出しました。遠隔学習のために技術を柔軟に活用しました。保健、水と衛生、子どもの保護の各分野との調整を通じて、学校は安全でインクルーシブな（誰もが受け入れられる）形で再開されました。教育財政を保護することで、教育システムのレジリエンス向上が実現しました。

主要な成果

学校に通っていない子ども**4,800万人**が
就学前教育、初等教育もしくは中等教育の
機会を得ました

4,300万人以上の子どもたちに
個別学習や就学前教育の教材が
届けられました

770万人以上の子どもたちが
学習のための能力開発プログラムに
参加しました



目標分野 3

すべての子どもが暴力や搾取から守られること

COVID-19による影響



子どもと若者の少なくとも7人に1人が、
2020年の大半に
外出制限（ステイホーム）の下での
生活を強いられたことで、
不安や抑うつ、孤立感に苦しみました。

子どもの保護に関連する持続可能な開発目標（SDGs）を達成するためには、以前より取り組みの加速が求められていましたが、COVID-19により、その道はより困難になりました。COVID-19の世界的流行は、メンタルヘルス、家庭内暴力、家族のケアを受けられない子どもといった子どもの保護に関する問題への関心を高める機会となり、社会福祉従事者はまさに「エッセンシャル・ワーカー」（社会生活に必要な不可欠な労働者）であることも明らかにしました。

主要な成果

人道危機下にいる子ども、青少年、
親や養育者**4,720万人**が
それぞれのコミュニティでメンタルヘルスと
心理社会的支援を受けました

600万人の10代の女の子たちが
児童婚の防止とケアに関する支援を受けました

57カ国で、**2,120万人**の子どもたちが
出生登録されました

84カ国で**1,780万人**が
ジェンダーに基づく暴力のリスク軽減、防止、
または対応のための支援を受けました



目標分野 4

すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと

COVID-19による影響

世界では約30億人が、石けんと水を備えた基本的な手洗い設備のない家で暮らしています。



平均で、毎日700人以上の5歳未満児が、水、衛生設備（トイレ）、衛生習慣がないことによる病気で命を落としています。

COVID-19が発生したことを受け、ユニセフはその世界的流行への対応の重要な要素として、ただちに水と衛生に関する支援に焦点を当て、手洗いキャンペーンを展開するとともに、リスクの高い地域の保健・医療施設や学校を中心に、公平かつ安価に利用できる水と衛生サービスを提供しました。

主要な成果

1,700万人が安全な飲み水を新たに利用できるようになりました

1,340万人が基本的な衛生サービスを新たに利用できるようになりました

56カ国が災害や気候変動、紛争、その他の危機に対応するための、国または地域の子どものために配慮した危機管理計画を策定しました

74カ国で、気候変動へのレジリエンスと低炭素開発を促進するための、子どもも参加したプログラムを実施しました



目標分野 5

すべての子どもが人生において公平な機会を得ること

COVID-19による影響



新たに1億4,200万人の子どもたちが、金銭的な貧困や、社会的養護を受けられない状態に陥っています。

ユニセフの社会的養護の取り組みにより、パンデミックがもたらした経済的な影響が可視化され、社会的支出への投資の必要性が明らかになり、COVID-19からのよりインクルーシブな回復が可能になりました。

主要な成果

31カ国が、調査、分析またはアドボカシー（政策提言）活動が子どもの貧困を減らすための政策やプログラムにつながったと報告しました

ユニセフが支援する現金給付プログラムにより、**93カ国**の**1億3,000万人以上**の子どもが支援を受けました

122カ国の**720万人**の青少年が、ユニセフが支援するプログラムを通じて市民協働の取り組みに参加、またはその活動を主導し、その数は人道危機下および開発支援における目標を超えました

ユニセフは、障がいのある人も含めた開発支援と人道支援プログラムを通じて、**144カ国**で**220万人以上**の障がいのある子どもたちに支援を提供しました



ジェンダーの平等

COVID-19の世界的流行を背景にジェンダーの不平等による影響が深刻化する中で、ユニセフはジェンダーに基づく暴力への対応を強化し、ジェンダーに配慮した保健・医療および教育サービスの維持、質の高い妊産婦ケアを中心とした養育者のケア、ジェンダーに関するデータと分析の強化に取り組みました。



- 国連人口基金(UNFPA)との共同プログラムを通じ、45カ国で600万人の10代の女の子に、児童婚関連の防止とケアの支援を実施しました。
- ジェンダーに配慮または対応したプログラムや制度を推進する国の数が、2019年と比べて3倍以上に増加しました(88カ国)。
- COVID-19の流行は、性的搾取や虐待からの保護の拡充を加速させました。安全で利用しやすい通報手段、国の行動計画、パートナーへの研修、専門機関への照会の強化が91カ国で実現しています。

人道支援活動

世界的なニュースになり注目を集めることは少なかったものの、ユニセフはCOVID-19への対応と並行して、152カ国における455件の新規および継続中の人道危機への対応を行いました。その内訳は次の通りです。



- 自然災害 102件
- 社会政治的危機 72件
- 保健上の緊急事態 211件
- 栄養危機 38件
- その他 32件